

防災マップ作成で中国新聞に掲載されました

期日：8月29日(火)

場所：本校グラウンド

中国新聞紙面に、マイコン部・写真部・放送部の活動が掲載されました。3つの部活動の新たな可能性として、カメラマン兼サウンドクリエイターの磯谷勝也様の指導の下、ドローンの練習を行っています。マイコン部はプログラミング技術、写真部は撮影技術、放送部は映像作成技術と目標は様々ですが、今後はハザードマップ作成等で地域に貢献できればと考えています。

部活でドローン 防災マップ作り
土砂災害で校舎そば被災 祇園北高

危険性分析 住民活用へ

広島市安佐南区の祇園北高の生徒が、小型無人機ドローンを活用した防災マップ作りを始める。上空から学校周辺の山や住宅地などを撮影し、土砂崩れや冠水の危険がある場所を分析。結果を住民に示し、豪雨災害などの際の避難に役立ててもらおう考えた。

（梁暁雨）

写真部と放送部、ゲートボール部など、チームのプログラミング練習を重ねている。ドローンで撮影した映像を、マイコン部の1年生計50人が参加する。プロの映像カメラマン、磯谷勝也さん（50）東区IIの指導で、今月上旬から、校庭で土砂が流れ込んだ。ドローンの操縦経験を

磯谷さん（左から4人目）の指導でドローンを操縦する生徒たち

積み、国土交通省に申請が必要な校外での飛行を目指す。1〜2年かけて防災マップを完成させる。地元が自主防災会連合会などが保育園、幼稚園児を対象に開いている合同避難訓練などで役立ててもらおうと思いついた。

写真部3年の古原恭也さん（18）は「中学の友人も土砂災害で被災した。ドローンで部活動の幅を広げ、地域に

も貢献したい」と意気込む。県によると、安佐南区には土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域が、市内8区で最多の1310カ所ある。磯谷さんは「平面のハザードマップは地形がイメージしにくい。上空からの映像や写真があると、被害の予測や避難経路の想定をしやすくなる」と説明している。

平成 29 年 8 月 29 日付け
中国新聞より抜粋
(中国新聞社の承諾を得ています)

